

真駒内まちづくり通信

SAPPORO
令和2年12月
【南区拡大版】 第17号

真駒内まちづくり通信は、「真駒内駅前地区のまちづくり」について南区にお住まいの方々に広くお伝えするため、第14号より南区に配布範囲を拡大して発行しています。

過去のまちづくり通信はホームページにて公開しています。▶

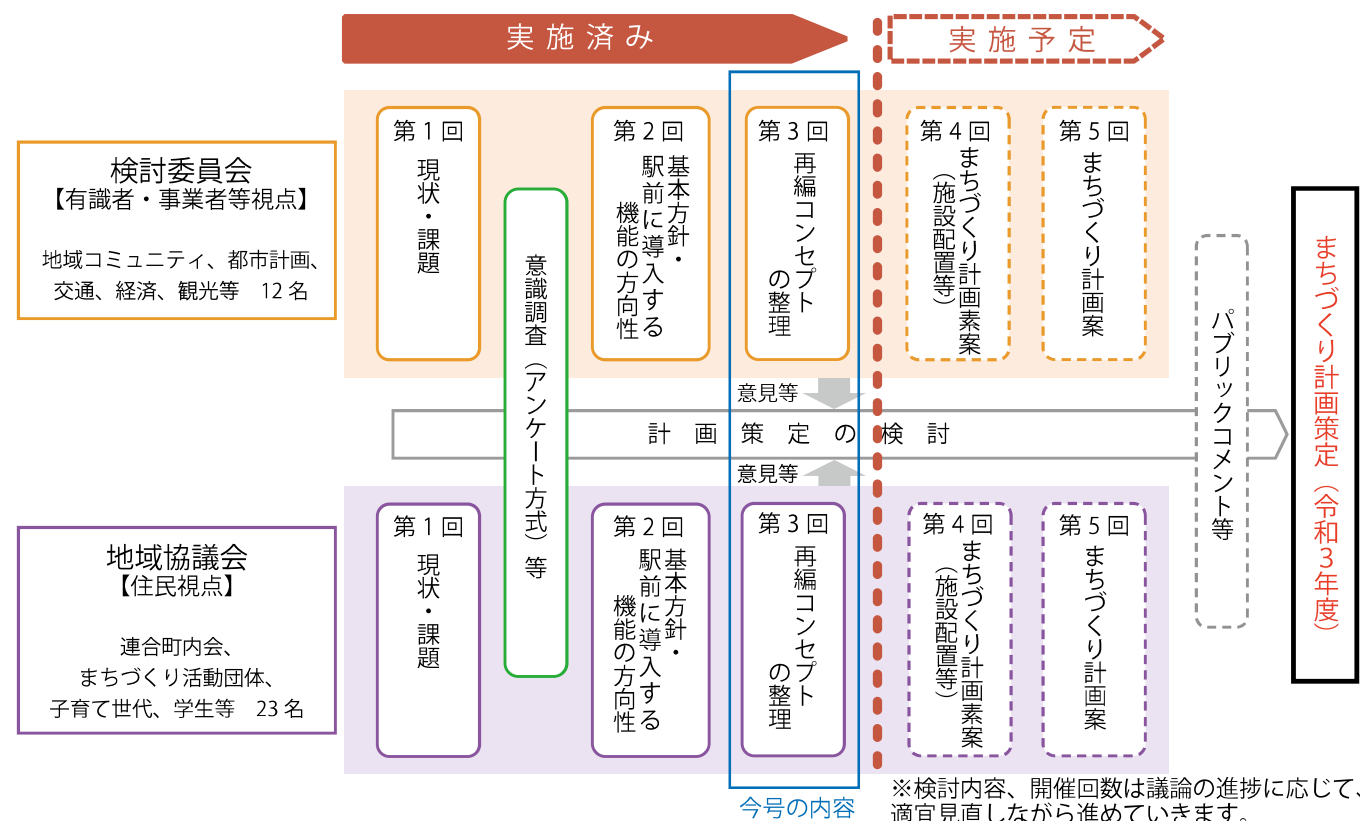
真駒内まちづくり通信

検索

<http://www.city.sapporo.jp/keikaku/kougai/makomanai/tsushin.html>

真駒内駅前地区のまちづくり計画の策定を進めています

～検討委員会、地域協議会、意識調査等、さまざまな視点からご意見を伺いながら、まちづくり計画の検討を進めています～



真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備に伴うまちづくりへの影響



小中学校の一体整備（教育委員会）

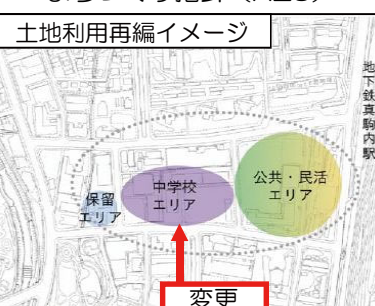
- ・真駒内中学校を真駒内桜山小学校の敷地に移転し、小中学校の校舎等を一体的に整備する予定であり、令和8年度の開校を目指しています。（左図）
- ・真駒内桜山小学校に近接した道庁官舎跡地を取得し、第2グラウンドとして整備する予定です。

小中学校の一体整備に伴うまちづくりへの影響

- ・平成25年に策定した「まちづくり指針」で、中学校を想定していた部分に変更になります。（右図）
- ・今後、「中学校エリア」も含めた一体エリアを対象として導入機能の配置が可能になるなど、土地利用の自由度が高まります。そのため、新たに土地利用の方向性の検討を進めています。

小中学校の一体整備に関するお問い合わせはこちら
札幌市教育委員会 学校施設担当部学校施設課
TEL.(011) 211-3835

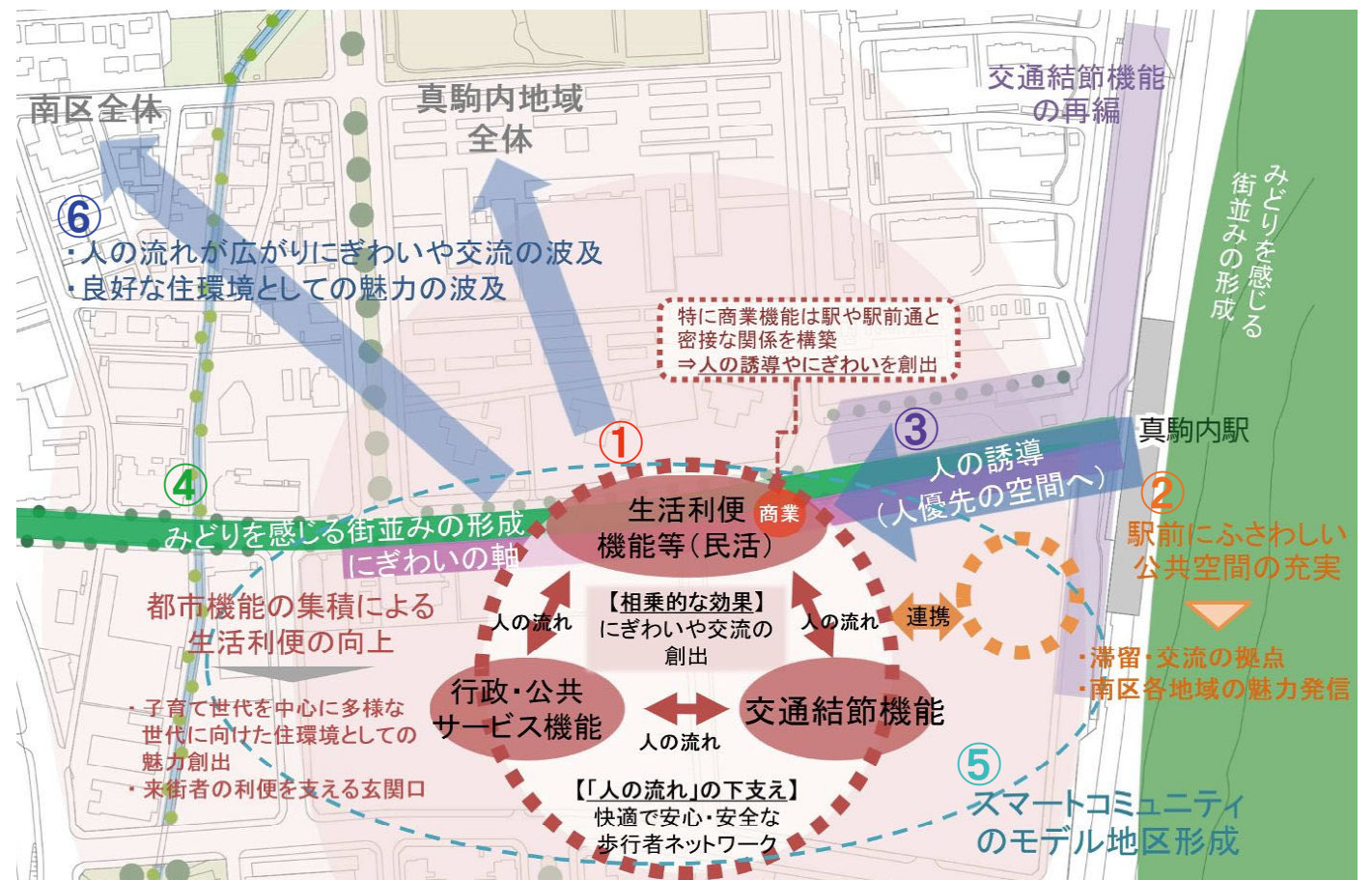
まちづくり指針（H25）



再編コンセプト（案）を下記のとおり整理しました

第2回検討委員会・地域協議会のご意見等から、各機能の関係性を整理し、重点、役割、効果を明確化した「再編コンセプト」を札幌市にてまとめ、これらに基づいて第3回検討委員会・地域協議会で意見交換を行いました。

《再編コンセプト（案）》



① 都市機能の相乗効果によりにぎわい等を創出
図中央の、民活施設などの「生活利便機能等」、区役所等の「行政・公共サービス機能」、真駒内駅前の「交通結節機能」を駅前の主要な機能とし、これら相互間の人の流れを促すことで、相乗効果としてにぎわいや交流の創出を目指します。

② 駅前にふさわしい公共空間の充実
駅前にふさわしい公共空間を充実することにより、駅前を「滞留・交流の拠点や南区各地域の魅力発信の場」とすることを目指します。

③ 人の誘導によりにぎわい創出を促進
駅から駅前地区へ人の流れを誘導し、特に「商業機能」を駅や駅前通と密接な関係にすることで、にぎわい創出の促進を目指します。

④ みどりをを感じる街並みの形成
桜山や駅前通りの緑豊かな景観を活かし、「みどりをを感じる街並み」の形成を目指します。

⑤ スマートコミュニティのモデル地区形成
駒岡清掃工場からの排熱の活用や、先進・省エネ技術の導入など、環境等に配慮したまちづくりとして「スマートコミュニティのモデル地区の形成」を目指します。

⑥ 真駒内地域全体・南区全体に効果を波及
①～⑤の取組を組み合わせ、真駒内地域全体や南区全体に、にぎわい・交流の波及や、良好な住環境としての魅力の波及を目指します。

第3回検討委員会を開催しました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議により開催しました。

◆実施期間 令和2年3月13日（金）～令和2年3月31日（火）

◆参加委員 12名（有識者・事業者等）

議題：再編コンセプトの整理について
再編コンセプト（案）について、ご確認いただきました。

主な意見

商業機能と駅前のにぎわい

- ・人の動線上に商業機能が配置されると、にぎわいが創出される。
- ・地域内外の多様な来街者の目的に応える複合的な土地利用により、利用者の交流が促される。
- ・にぎわい創出については、地域の理解を得ながら進めることが重要。

駅と再編街区の直結

- ・駅と民活施設が屋内空間でつながると、利便性が向上するとともに、民間事業者の意欲も高まる。

民活機能と交通機能の連携

- ・バス運行表示を商業施設に設置するなど、民活機能と交通機能の連携により様々な可能性が広がる。
- ・バス待ちなど、時間をつぶせる場所が必要。

交通結節機能の充実

- ・駅とバス乗降場の接続は、移動に負担のかからないように計画すべき。
- ・駅前に車いす対応タクシーの乗降場所を設けてほしい。

南区における公共交通のあり方

- ・運転手不足などの状況をふまえ、今後の南区における公共交通のあり方を視野に入れながら考えていくべき。

あらゆる世代が暮らしやすいまち

- ・若い人が継続的に入ってくる街にすべき。
- ・高齢者の移動需要の変化に対応した街にすべき。
- ・各世代が求める機能や空間などをより深く検討すべき。

真駒内独自の魅力の打ち出し

- ・自然の近さや後背の観光資源など、真駒内らしさを積極的にコンセプトに取り入れるべき。

時代を追従できる可能性

- ・時代の変化に合わせて、施設の利用方法等を柔軟に変えられるようにすべき。

みどりの取り込み

- ・みどりは、魅力ポイントではなく必須事項であり、駅前通りだけでなく当該地区内にもみどりを取り込まれていくイメージが大切。

南区の魅力発信の場としての公共空間

- ・南区の魅力発信や、人の交流により新たな取組を生み出すことを考えてはどうか。

検討委員会・地域協議会の
詳細はこちらから！

札幌市 真駒内地域

<http://www.city.sapporo.jp/keikaku/kougai/makomanai/index.html>

検索

第3回地域協議会を開催しました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各グループごとに時間を分け、会場参加とオンライン参加を組み合わせた方法により、意見交換を行いました。（ワークショップ形式）

◆開催日時 令和2年10月9日（金）

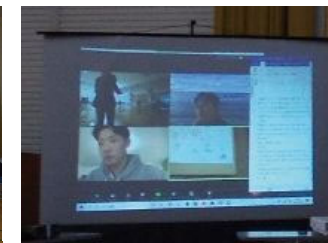
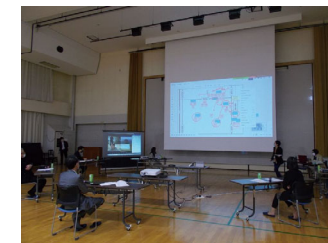
(1)13:30～15:00

(2)16:00～17:30

(3)18:30～20:00

◆場 所 南区民センター「区民ホール」
（南区真駒内幸町2丁目2-1）

◆参加者 18名（地域住民等）



ワークショップの様子（左：全体写真、右：オンライン参加画面）

駅前地区がどのような使われ方をするかを想像し、効果を高める機能の関係性を意見交換しました。

主な意見

◆駅前に求められる機能の位置関係について

各機能の拠点として広場を駅前に配置

- ・各機能への接続性を高めた広場機能を駅前に配置すると、利便性が高まる。
- ・バスを降りて駅に向かう途中に、カフェなど一体となる広場機能があると、気軽に立ち寄ることができる。

交通結節機能を各機能の中心に配置

- ・駅や各機能の中心に交通結節機能を配置すると、来街者や地域の方が利用しやすくなる。

◆駅前に求められる新たな機能や考えるべき事項について

駅前空間の活用

- ・人と車の交錯を減らして、駅前広場を有効に活用すべき。
- ・広場と駅前通りを一体的に活用することで、素晴らしい駅前になるのではないかな。

南区の中心としての広場機能の活用

- ・南区の交通結節点となる真駒内の駅前広場で、どのようににぎわいを創出するか考えるべき。

行政・公共サービス機能を駅から離して配置

- ・目的を持って訪れる施設は、あえて駅から離すことで、人通りが生まれる。
- ・区役所の手続きは一部オンラインでも可能であるため、区役所は駅から少し離しても良い。

駅と各機能の直結

- ・駅と各機能が屋内空間でつながると、利便性が向上し、にぎわいが創出される。

真駒内らしさ、現状の良いところを活かす

- ・みどりの景観を活かし、歩いて楽しめる街になると良い。
- ・既存施設との関係も考慮し、街全体が活性化していく視点で考えるべき。

創造的な活動を支える場

- ・地域の人や学生が、勉強したり、創造・芸術活動ができる交流・文化・情報発信の場があると良い。

第3回検討委員会・地域協議会でいただいたご意見をもとに、「再編コンセプト（案）」との整合性を確認した上で、次回検討委員会・地域協議会では施設配置（案）等をご説明する予定です。

発行者

札幌市まちづくり政策局
都市計画部地域計画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL. (011) 211-2545
FAX. (011) 218-5113

真駒内駅前地区まちづくりに関するご意見は、上記へお寄せください。



さっぽろ市
02-803-20-1814
R2-2-1161